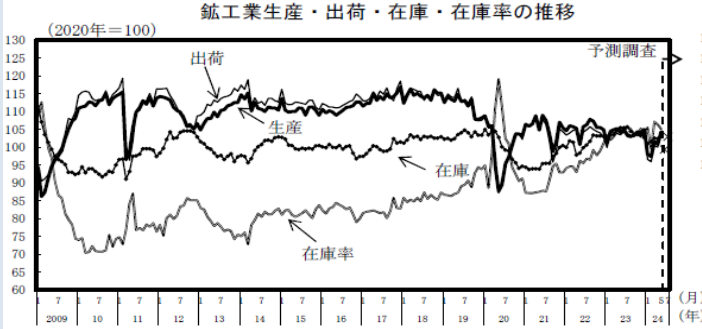
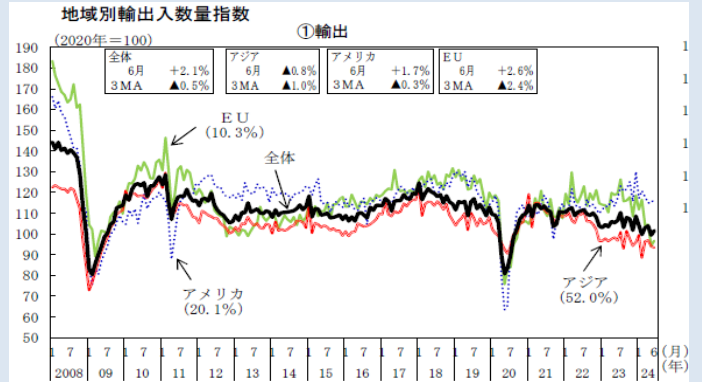
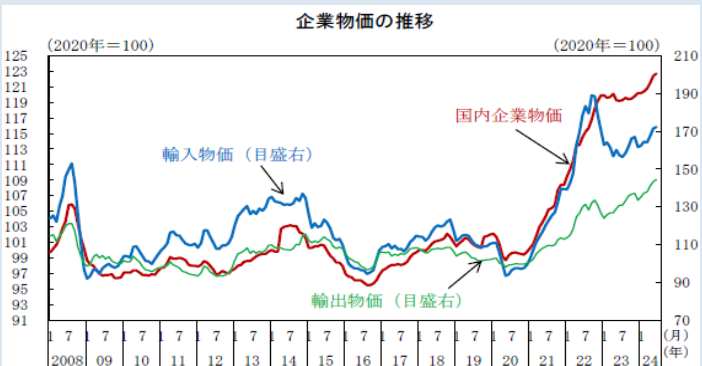
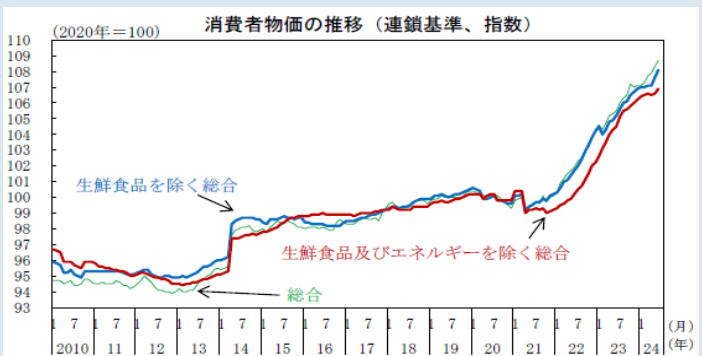


月例経済報告（2024年7月）

● 月例経済報告（7/25）

基調判断	(7月) 景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。 (6月) 景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続に伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。さらに、令和6年能登半島地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。																								
個人消費	(7月) 持ち直しに足踏みがみられる。 (6月) 持ち直しに足踏みがみられる。 総消費動向指数（CTIマクロ）と総雇用者所得 (2015年=100) <table><tr><th colspan="4">総消費動向指数（CTIマクロ）</th></tr><tr><th>項目</th><th>4月</th><th>名目</th><th>実質</th></tr><tr><td>総消費動向指数（CTIマクロ）</td><td>4月</td><td>名目 +0.1%</td><td>実質 +0.1%</td></tr><tr><td></td><td></td><td>(3MA +0.1%)</td><td>(3MA ▲0.0%)</td></tr><tr><td>総雇用者所得</td><td>4月</td><td>名目 +0.3%</td><td>実質 ▲0.1%</td></tr><tr><td></td><td></td><td>(3MA +0.2%)</td><td>(3MA +0.1%)</td></tr></table>	総消費動向指数（CTIマクロ）				項目	4月	名目	実質	総消費動向指数（CTIマクロ）	4月	名目 +0.1%	実質 +0.1%			(3MA +0.1%)	(3MA ▲0.0%)	総雇用者所得	4月	名目 +0.3%	実質 ▲0.1%			(3MA +0.2%)	(3MA +0.1%)
総消費動向指数（CTIマクロ）																									
項目	4月	名目	実質																						
総消費動向指数（CTIマクロ）	4月	名目 +0.1%	実質 +0.1%																						
		(3MA +0.1%)	(3MA ▲0.0%)																						
総雇用者所得	4月	名目 +0.3%	実質 ▲0.1%																						
		(3MA +0.2%)	(3MA +0.1%)																						
設備投資	(7月) 持ち直しの動きがみられる。 (6月) 持ち直しの動きがみられる。 製造業・非製造業の設備投資（名目額） (兆円)																								
住宅建設	(7月) 弱含んでいる。 (6月) 弱含んでいる。 住宅着工戸数（季節調整値） (年率、万戸) 5月 81.3万戸 3MA 81.8万戸																								
雇用情勢	(7月) 改善の動きがみられる。 (6月) 改善の動きがみられる。 雇用者数、就業者数、就業率の推移 (万人) (%) 就業者数 4月：6,751万人 雇用者数 4月：6,096万人																								

生産	(7月) このところ持ち直しの動きがみられる。																
	(6月) このところ持ち直しの動きがみられる。																
輸出	(7月) 持ち直しの動きに足踏みがみられる。	 <table border="1" data-bbox="758 530 1203 604"><thead><tr><th>地域</th><th>6月</th><th>3MA</th></tr></thead><tbody><tr><td>全体</td><td>+2.1%</td><td>+0.5%</td></tr><tr><td>アジア</td><td>+0.8%</td><td>+1.0%</td></tr><tr><td>アメリカ</td><td>+1.7%</td><td>+0.3%</td></tr><tr><td>EU</td><td>+2.6%</td><td>+2.4%</td></tr></tbody></table>	地域	6月	3MA	全体	+2.1%	+0.5%	アジア	+0.8%	+1.0%	アメリカ	+1.7%	+0.3%	EU	+2.6%	+2.4%
	地域		6月	3MA													
全体	+2.1%	+0.5%															
アジア	+0.8%	+1.0%															
アメリカ	+1.7%	+0.3%															
EU	+2.6%	+2.4%															
(6月) 持ち直しの動きに足踏みがみられる。																	
国内企業物価	(7月) 緩やかに上昇している。																
	(6月) このところ緩やかに上昇している。																
消費者物価	(7月) 緩やかに上昇している。																
	(6月) 緩やかに上昇している。																
海外経済	(7月) 世界の景気は、一部の地域において足踏みがみられるものの、持ち直している。先行きについては、持ち直しが続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響による下振れリスクに留意する必要がある。また、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動の影響を注視する必要がある。																
	(6月) 世界の景気は、持ち直している。先行きについては、持ち直しが続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞に伴う影響による下振れリスクに留意する必要がある。また、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動の影響を注視する必要がある。																

月例経済報告：内閣府